

チューリヒ歌劇場が リーム70歳を祝う

今年は各地でヴォルフガング・リームの70歳の祝いが催されているが、チューリヒ歌劇場でも11月17日に対談演奏会が催され、当地で世界初演された『Dunkles Spiel』やバリトンのクリスティアン・ミードルが歌う『Umsungen, Der Maler träumt』、親しかったルーシ・ノーフとの思い出を表した『Abgewandt 2』が演奏され、作曲家を囲む温かい雰囲気の中、改めてリームの世界に浸った。「自分の作品は子供のよう」と語るリームは当夜のプログラムミングも評価し、ここ数年車椅子で移動する彼が立ち上がって感謝を述べた。

11月19日には彼の室内オペラ『ヤコブ・レンツ』が新演出され、チューリヒ室内管弦楽団の本拠地であるZKOハウスで初日を迎えた。エイドリアン・ケリーが指揮する当楽団員によるアンサンブル、詩人レンツを熱演したヤニック・デブスほか、オペラスタジオ生もこの複雑な曲を自然に歌い、好演した。

当歌劇場で先月初日を迎えたオッフェンバック（バルクフ）も、犬が統治者になるという荒唐無稽なストーリーを、楽しめるプロダクションになっている（11月6日所見）。ジェレミー・ローレルの指揮は軽快で、マックス・ホップの演出はメルヘン

ティック。安定した高音と、コロラトゥーラで色気を巧く表現したマイマ役のブレンダ・ラエ、心地よいメゾの声を聴かせたバルキス役のレイチエル・ウィルソン、「鳴る」声ではないが上品な響きで、アリア最後の高音にはブラボーが飛んだサエ役のミンギー・レイ、代役とは思えない安定感の



チューリヒ歌劇場『バルクフ』から ©Monika Rittershaus

共演が今回も光った。冒頭のペートル・ヴェン3曲目『悲しみの喜び』あたりから落ち着き始めたペートルの歌唱は、メンデルスゾーンでは彫りが浅い印象を与えた。後半ヴォルフの世界にはよくはまり、「さようなら」、「恋人に」は深い思い入れを感じさせたほか、『春た』ではドイツ語のピアノが炸裂した。最後のモーツァルトではペートルの音楽性が輝き、有名な『童』の完成度の高さは特筆に値する。アンコールはさらにパワーアップし、聴衆をほほえませた完璧なペートル・ヴェン（キス）等、4人の作曲家の曲を一曲ずつ披露した。

P・ヤルヴィの 「コンダクターズ・アカデミー」

今年もチューリヒ・トーンハレ管弦楽団音楽監督パーヴォ・ヤルヴィの「コンダクターズ・アカデミー」が、入場無料のライヴとストリーミングで開催された。278人の応募者のなかから選ばれた6人の若手指揮者が2日間のマスターコースを経て、11月18日の演奏会を交代に指揮した。韓国のチェ・ジェヒョク、ギリシアのエレニ・コチュマニドゥ、スイス/イタリアのマウロ・マリアーニ、ウクライナのサーシャ・ヤンケヴィチ、ポーランドのアガタ・ザヨントラを圧して、ジョージアのミリアン・ククナイシヴィリがバルス音楽祭のマスタークラスに参加できる「パーヴォ・ヤルヴィ奨学金」と賞金1000フランの聴衆賞両方を受賞した。指揮者を目指す者には宝のような録画はホームページで観ることができる。（<https://www.tonhalle-orchester.ch/en/orchester/conductors-academy/?date=1668589200>）ハンブルク・エルブフィルハーモニーで

の演奏会を終った当楽団は、11月4〜6日にはジャン・ヌ・ヤンセン（Vn）を招き、バーンスタインの『セレナード』を好演した。ヤンセンの美しいソロと抜群の表現力が光り、オーケストラも美しいハーモニーで寄り添う。激しさとスピード感も兼ね備えたエキサイティングな共演を聴けたことに感謝した。その前後には当楽団お得意のメシアン（『キリストの昇天』）とブルックナー・ツィクルスとして『交響曲第3番』を置き、充実した演奏会となった。

11月25日はCDにもなっているルドルフ・ブッフビンダーのディアベリ・プロジェクトが同ホールで聴かれた。冒頭にオリジナルの『ディアベリ・ワルツ』を弾き忘れるほど集中して、レーラ・アウエルバッハ、ブレット・ディーン、細川俊夫、クリスティアン・ヨスト、ブラッド・ラブマン、フィリップ・マヌリ、マックス・リヒター、ロデオ・シチエドリン、ヨハネス・マリア・シユタウト、タン・ドゥン、イェルク・ヴィトマンによる「新ヴァリエーション」を弾いたあと、「祖国芸術家協会」のヴァリエーション、休憩後には忘れていたディアベリの原曲とペートル・ヴェン『ディアベリのワルツ』の主題による33の変奏曲を弾き、アンコールにはヨハン・シユトラウスのワルツで客席を沸かせた。

その他のニュース

ルツェルン音楽祭総裁のミヒャエル・ヘフリガー氏が2025年の退任を発表した。当音楽祭は11月18〜20日まで『Forward』を開催し、ルツェルン祝祭現代管弦楽団（LFCO）がバトリシア・コパチンスカヤ（Vn）と共演したリゲティ『ヴァイオリン協奏曲』等を披露した。